

平成 29 年度 第 5 回 おおさか環境ネットワーク会議レポート

作成：事務局 堤 康郎

日時：平成 29 年 9 月 20 日(水) 18:30~20:30

場所：大阪市立総合生涯学習センター 5 階 第 3 研修室

セミオープン形式で実施

第 5 回おおさか環境ネットワーク会議は、いつもと趣を変え、「おおさか環境ネットワーク」参加団体以外の活動団体の方にも門戸を広げセミオープン形式で実施しました。

今回は、同志社大学大学院 総合政策科学研究科 ソーシャルイノベーションコース准教授 佐野淳也(さの じゅんや)先生をお招きし、「ソーシャルイノベーションのおこしかた」について、グループワークを交えた講演をしていただきました。

切り口は社会が変わったなという実感



冒頭での、先生のプロフィール紹介に続いて行われたペアワークでは、近くの参加者同士でペアをつくり、これまでの自身の活動で「社会が変わったな、という手ごたえ」を感じたのはどんなときだったのかについて、お互いの自己紹介を兼ねて語り合い、話し合った内容を全体で共有。行政や企業がカバーできない領域を、本日参加の各団体が継続的にカバーしていることの意味の大きさや、各

団体が既に何らかの形で大なり小なり社会変革に関与していることを全員で確認しました。

こうした共通認識のもと、では、今注目を集めているソーシャル・イノベーションとはどんなものなのか、どのように起こせばよいのかについて、先生から説明がなされました。

ソーシャル・イノベーションとは？その起こしかたは？

先ずソーシャル・イノベーションについてですが、その定義はいろいろですが、「今ある社会課題が発生しない仕組みへと社会を革新(バージョンアップ)すること。またそれに向けたアイデアや行動、事業活動などの総称」、要約すると「新しい当たり前をつくること」であるとの指摘がなされました。その最大の特徴は、よりよい社会をつくるためのミッションに向けて継続性のある事業を産み出し、利益と雇用を創出しながら、問題を産み出してい

るシステムそのものの変革を目指していくところにあるとのことでした。

次にソーシャル・イノベーションの起こしかたですが、①アイデアを思いつく、②仲間を集める/グループをつくる、③試にやってみる、④事業化する/ビジネス化する、⑤事業を拡大する/各地に広げる、⑥システム変革(意識変容/制度化/産業化)、以上、6つのステージを経て社会への定着を図っていくとのことでした。



先生の説明に聴き入る参加者

コレクティブ・インパクトというアプローチ

更に参考になったのが、社会的課題の解決には、ひとつの組織の力で解決しようとするのではなく、立場の異なる組織(行政、企業、NPO、基金、市民など)が、セクターを越えてお互いの強みやノウハウを持ちあって、同時に社会的課題の解決を目指すアプローチコレクティブ・インパクトが有効で、その際重要となるのが、①共通のアジェンダ、②評価システム、③相互の活動強化、④持続的なコミュニケーション、以上を産み出す中間支援組織の存在であるとの考え方でした。

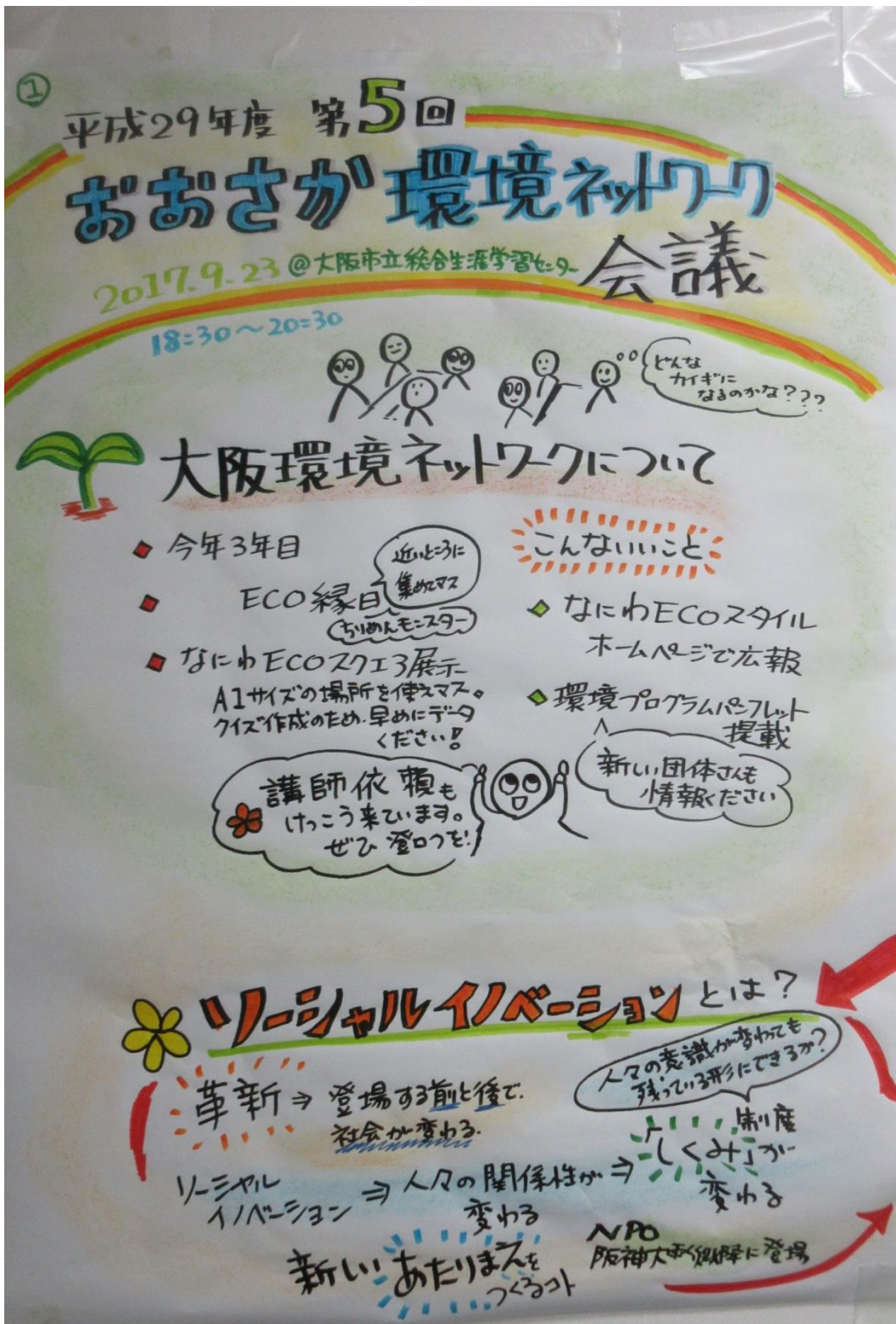
以上の講演を踏まえ、参加者は「ソーシャル・イノベーションへの道筋を探ろう!」ということで、グループワークに取り組みました。4名程度のグループに分かれ、先ほどの6つのステージを経た、各自が目指すソーシャル・イノベーションの実現に向けたシミュレーションを行い、グループ内で発表しました。

今回は、新たな試みとしてグラフィック・レコーダーの方に同行いただき、その場で当日の一連の講演とグループワークを手際よくビジュアル化してもらい、より一層の参加者への理解促進に努めました。

最後に、恒例の参加団体のみなさまからの積極的な行事案内・PRを経て、第5回おおさか環境ネットワーク会議は終了となりました。

なお次回の第6回おおさか環境ネットワーク会議は、「[ECO 縁日 2017](#)」へのおおさか環境ネットワークの取り組みを中心に [10月13日\(金\)](#)、[なにわエコスクエア 1階研修スペース](#)で [18:30~20:30](#) に開催されることになっております。

以上



参考—グラフィック・レコーダーによる現場での見える化①



参考—グラフィック・レコーダーによる現場での見える化②



参考—グラフィック・レコーダーによる現場での見える化③